

主な御意見の趣旨

- 地域中核拠点エリアのような狭い範囲内での活動を一定まかなえるまちづくり
- これまで受け継いできた資源をいかした、京都らしい都市生活を目指すことは重要
- 防災や文化財、観光、健康などの観点との連動
- 「学術文化・交流・創造ゾーン」の都市計画への落とし込み
- コロナ禍で再確認された、京都ならではの暮らし方や伝統文化、環境の重要性
- 各分野の政策ブリッジを強め、実効性のある施策に結び付けるために、方面別指針を検討するのは良い視点であり、充実を期待
- 例えば土地利用、景観、歩くまちといった観点を融合させ、方面別の検討の中でどのような将来像を描いていくのかを議論していくことが大事
- 文化庁移転などのインパクトを都市計画にいかしていくことが重要

拡充の方向性

- 都市の持続性の基礎となるヒューマンスケールな地域の魅力向上
- 生活者の目線で、未来への希望を実感でき、次世代も愛着を持てる地域の形成
- 真のワーク・ライフ・バランス、SDGs、ICTへの対応。コロナ社会も展望

従来：道路、公園、防災など施策ごとの方針を都市マスに記載
⇒関係施策の連動性を深めた総合性の高い方策も記載

- ・日々の活動が快適で健康な暮らしにつながるまちづくり
- ・京都らしさをいかした環境に優しく安心安全なまちづくり
- ・文化や学術などの資源をいかした創造性豊かなまちづくり

※これら以外にも多様な地域で様々な施策の連動が考えられる

【まちづくりの推進イメージ】

《ウォークアブルシティ（四条通）》

歩くまち × 道路 × 商業 × 健康

「歩くまち・京都」を支える歩行空間



《グリーンインフラ（雨庭の整備）》

公園・緑地 × 防災 × 環境

雨をゆっくり地中に浸透させる植栽空間



《働きやすい都市環境の向上》

土地利用 × 子育て × 福祉

機能性を高める便利施設（店舗、飲食店、保育所等）を併設した建築物を誘導
※五条通（JR丹波口駅～西大路通）、四条通以南の工業地域等で実施（R1.12）

《防災まちづくりの推進》

土地利用 × 防災 × 水・河川

- 災害リスクの評価・発信
- 評価を踏まえたハード整備や土地利用、ソフト対策
- 流域治水の対策

《「住むまち」としてのブランド力の向上》

土地利用 × 住宅 × 情報

京都に住むことの魅力や価値を発信

《スタートアップ・エコシステム》

土地利用 × 産業

「大阪・京都・ひょうご神戸コンソーシアム」が「スタートアップ・エコシステムグローバル拠点都市」に選定

《学術文化・交流・創造ゾーン（検討イメージ）》 まちづくり × 文化 × 大学等

持続可能な都市構築プラン

多様な人々の出会いや集い、交流を通じて、地域に息づくまちの資源を活かした場が、地域のまちづくりと結びつく街区など



⇒ 京都の特性（歴史、文化、大学、伝統・先端産業等）を活かし、新たな魅力や価値の継承・創造

現行都市マス

都市計画の方針
「京都の魅力を高める土地利用」

- ①国際文化観光都市としての土地利用の誘導
〔祇園界限、嵐山周辺、国際会館周辺、岡崎地域等〕
- ②大学のまちとしての土地利用の誘導
〔山ノ内浄水場跡地、らくなん進都〕
- ③交流機能を高める土地利用の誘導
〔梅小路公園周辺、太秦周辺、北山駅周辺〕

地域まちづくり構想

- 〔随時都市マスに位置付け〕
- 地域が都市マスの方針に沿って検討した地域の「将来像」と「まちづくりの方針」
- 〔京都駅東部・東南部・西部エリア〕

+

拡充
〔裾野を広げる〕

岡崎地域や京都駅東部エリア等の既存のエリアも、ゾーンへの位置付けを検討

従来の広域的・歴史的なエリアでの取組に加え、文化をいかした地域・住民レベルでの取組を展開

まちづくりの支援

学術文化・交流・創造ゾーンとして都市マスに位置付け（地域まちづくり構想等）

都市計画上の支援（必要に応じて）

情報発信
〔周辺都市・日本全国・世界から多様な人材の呼び込み〕

- 例えば…
- ・大学周辺の学生・若手研究者の産業化ラボ
 - ・京町家を保全したデザイン開発拠点 等

《スマートシティ》

まちづくり × 情報 × デジタル化

先進的技術の活用により、都市や地域の機能やサービスを効率化・高度化し、各種の課題の解決を図るとともに、快適性や利便性を含めた新たな価値を創出



*人々の豊かな暮らしとともに、持続可能な都市の財政や都市経営の観点も踏まえて検討